

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：23015

「学ぶ力」	
成果	課題
<p>◇子どもが主体的になる授業の創造のため、AAR サイクルを意識した単元構成や教材の工夫をしてきたことで、子どもたちの主体的に学習に取り組む姿勢が育った。</p> <p>◇自己決定する場をつくることで、活動に意欲的に参加したり、目標に合わせて協力したり、協働的に学ぶ姿が見られた。</p> <p>◇協働的な学びの場づくりや教師の関わりを通して、課題意識をもちながら学習に取り組む力が育った。</p>	<p>◇ふだんの学習の様子から、学習への必要感を感じられないと主体的に学習に取り組むことが難しい子が多い。</p> <p>◇友達の考えを聞いたり、話したくなったり、学びを自分事にして主体的、協働的に学ぶとする姿に課題がある。</p> <p>◇ICTの効果的な活用。</p> <p>◇どの子も参加でき、子ども自身が学びの見通しをもつことができる授業の構想や場面の設定。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市の共通指標によると、「自分が必要とされていると感じるか」については低い傾向にあるので、児童自身が自分の可能性や存在価値に気づいていくことが課題である。「自分の思っていることや感じていることを人に伝えている」「自分の意見を進んで発言しようとしている」「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている」といった主体的に表現したり解決方法を考えたりする項目は低い傾向にあるので、今後も子ども一人一人の思いを大切にしながら、自己肯定感を高めていけるように取り組む必要がある。</p>	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
自分や仲間とのつながりを広げ、主体的に学ぼうとする子の育成	
課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
<p>(1) 学び部テーマ「『自分や仲間とのつながりを広げ、主体的に学ぼうとする子の育成』」の実現</p> <p>→6年間の育ちを見通した、主体的に学ぶ姿の共通理解と具体的な姿</p> <p>(2) 「分かる、できる、楽しさを感じながら、つながりや『もっと～したい』のある授業」を実現するための授業改善</p> <p>→基礎基本の定着を図る時間、協働的な学びの時間を意識した時間の構成、子どもの主体性を生み出すイントロダクションとリフレクション、<u>協働的な学びの場づくり</u>、ICTの効果的な活用、自己決定する場づくりなど</p>	<p>①目指す授業像「分かる、できる、楽しさを感じながら、つながりや『もっと～したい』のある授業を実現できるようにする</p> <p>→子どもの思いを真ん中に、「～を考えたい、～を試してみたい」という思いや願いを持つことができるようにする場の設定</p> <p>→単元構成やすべての学校活動、各教科の単元構成、各行事、特別活動でもAARサイクルを意識した計画</p> <p>→自主学習の充実のために、自分の学びを振り返り、課題や苦手を意識し、自分の学びを調整しようとする力の育成</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
<p>◇主に(2)について、複数のツールを活用する場を設け、ICT活用の経験を積み重ねることで、最終的には目的にあった適当なツールを児童自らが選択できるようにする。</p> <p>◇ドリルパークの宿題を全校統一して出すことで、ICTに触れる機会を設ける。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

